

## 会議録

会議の名称	令和6年度第5回西東京市行財政改革推進委員会
開催日時	令和7年1月31日（金）午後2時00分から午後3時30分まで
開催場所等	西東京市役所田無庁舎庁議室及びWEB会議
出席者	委員：横道清孝委員長 原田久委員 鈴木文彦委員 伊藤俊介委員 池添弘邦委員 岸本恒久委員 佐藤泰治委員 鈴木研太委員 事務局：柴原企画部長 宮澤企画部主幹（企画政策課） 利根川企画政策課企画政策担当主任 山本企画政策課企画政策担当主任
議題等	1 行政評価制度（事務事業評価）の検証について 2 その他
会議資料の名称	資料1 行政評価制度（事務事業評価）の検証について 資料2 事務事業評価シート
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>開会</u> 委員長より開会の挨拶</p> <p>○事務局： 会議の進行の説明</p> <p>○横道委員長： 傍聴要領に基づき、傍聴人の入室を認める。</p> <p><u>議題1 行政評価制度（事務事業評価）の検証について</u></p> <p>○事務局：《資料1、資料2について説明》</p> <p>○横道委員長： 委員の皆様から意見等はあるか。</p> <p>○鈴木（文）委員： 事務事業評価の結果は予算査定にどのように反映されているか。</p>	

○事務局：

事務事業評価は行政資源の効率的・効果的配分という視点に加え、業務内容の改善や効率化、より良いサービスの提供という視点加わってきており、予算査定と事務事業評価の関係性がやや曖昧になってきている部分がある。これまでも事務事業評価の結果は、財政部門と情報共有をしてきており、予算査定の参考として活用しているが、今後は、評価シートにコストの方向性を明示し、より有効に予算査定に活用していきたいと考えている。

○佐藤委員：

コストの方向性が拡充になる場合はどういうケースを想定しているか。  
また、中央値である6点の評価結果となった場合、どの評価区分に分類する予定か。

○事務局：

コストの方向性については、総合的な評価をした上で、社会情勢等を考慮しながら決定していくものと認識している。

評価結果が中央値となった場合の評価区分については、今後検討していく。

○原田委員：

効率性を評価する際、所管課が効率化に向けて取り組んできた経緯は重要ではない。インプットとアウトプットの関係性を反映させる評価項目を設定すべきである。受益者負担は市の投入量（インプット）を軽減させる仕組みであり、受益者負担の有無については効率性を評価する項目としては不適切である。

○鈴木（文）委員：

アウトプットは市でコントロールできる数値であり、アウトカムは市でコントロールできない数値であると整理できる。アウトプットの情報を掲載する欄は、活動指標ではなく活動実績のほうが分かりやすい。

○伊藤委員：

インプットに対するアウトプットの経年の変化量をモニタリングすることで効率性が評価できるのではないか。

○原田委員：

インプットに対するアウトプットの比率は、他団体との乖離又は過去の実績との比較をもって評価する必要がある。単年度のみ事業費データや活動指標を用いて評価を行うことはできないと考える。

○池添委員：

他団体や時間軸での比較は、所管課の事務負担を考慮すると難しいのではないか。事務事業がアウトカムに対しどれくらい寄与しているか、二次評価や本部評価で丁寧に把握していくことが重要である。

○岸本委員：

所管課による工夫やこれまでの実績をアピールするコメント欄を充実させる様式が望ましい。

○鈴木（研）委員：

市の政策的に実施の必要性が高いという検証項目については、客観的な評価が難しいと考える。

○鈴木（文）委員：

指標を設定した理由やこれまでの実績を記述する「成果指標の分析」欄は、分析以外の文言で整理すべきである。また、事業費データに減価償却費やシステム管理費などの間接費用を含め、地方公会計とリンクさせることが望ましい。

○横道委員長：

有効性の評価は、業務プロセスではなく、業務内容が改善されているかを検証する必要がある。効率性の評価は、人件費の効率化と事業費の効率化を切り離して考えるべきである。

○佐藤委員：

事務事業の目標と目指す成果をより詳細に記載し、成果指標を設定していくことが望ましい。

## 議題2 その他

○事務局：

次回の委員会の開催は、次年度を予定している。

○横道委員長：

これで令和6年度第5回行財政改革推進委員会を閉会する。

《閉会》